

近畿地方整備局
資料配布

配布 日時	平成15年12月26日(金) 16時00分
----------	--------------------------

件名	大滝ダム白屋地区地すべりに関する局長コメント
----	------------------------

概要	本日開催された第4回大滝ダム白屋地区亀裂現象対策検討委員会において審議された対策工の基本検討結果について近畿地方整備局長のコメント
----	---

取り扱い	制約なし
------	------

配布場所	近畿建設記者クラブ 大手前記者クラブ 五條市政記者クラブ
------	------------------------------------

問合せ先	国土交通省近畿地方整備局河川部 地域河川調整官 林 正己 電話 : 06 - 6942 - 4404 国土交通省近畿地方整備局紀の川ダム統合管理事務所 河川工事課長補佐 三上 章 電話 : 07472 - 5 - 3013
------	--

大滝ダム白屋地区亀裂現象対策検討委員会において審議された対策工の基本検討結果について
(谷口博昭^{ひろあき}近畿地方整備局長コメント)

現在、仮設住居にお移り頂いております白屋地区の皆様におかれましては、大変なご苦労をお掛けしています。

本日の第4回大滝ダム白屋地区亀裂現象対策検討委員会において、大滝ダムの白屋地区における地すべり対策について基本検討の結果が示されました。

今後は住民の生活再建について県・村・地元と十分協議・協力しながら押し進めると共に、できるだけ早急に具体的な地すべり対策を実施して参りたい。

大滝ダム白屋地区亀裂現象対策検討委員会

第4回委員会 議事要旨

日 時：平成 15 年 12 月 26 日（金） 10:00～12:00

場 所：三井ガーデンホテル奈良 5階「エトワール」

出席者：

委員長	渡	正亮（日本地すべり学会顧問）
委員	吉松	弘行（砂防・地すべり技術センター斜面保全部長）
〃	中村	康夫（独立行政法人土木研究所地質官）
〃	永山	功（独立行政法人土木研究所水工研究グループ長）

議事について：

1．報告事項

第3回委員会以降の現在までの降雨、貯水状況及び調査ボーリング等の調査内容が報告された。

2．観測データの確認

これまで確認された亀裂および変状は、貯水位低下後、沈静化していることが確認された。

3．地形・地質とりまとめ

今回実施されたボーリングでは、深度 50m から 70m まで、亀裂が発達し部分的に角礫化、細粒化、粘土化等が見られ、岩盤が長い年月をかけて風化し、緩み域を形成していることが推定された。この中で特に粘土化が進んだ強風化岩に分類される箇所は、複数の深度に分布し、その一部には鏡肌や条痕などが認められる。今回の地すべりは、湛水によってこの緩み域内の川側斜面で、これらの変形の一部が急速に進行し発生したものである。

4．地すべり機構と湛水後の変動予測

今後、湛水によって、地すべりブロックの変動と緩み域の不安定化が促進される恐れがあるので、対策を必要とすることが提案され了承された。

5．対策工の基本検討

1) 今回の対策工法検討条件は、以下のとおりとする。

- ・地すべり・緩み域の計画安全率はそれぞれ 1.10、1.05、とする。
- ・間隙水圧の残留率は、貯水位降下速度は 5m/日として浸透流解析によって決定する。

2) 対策工の提案

- ・地すべりブロックに対しては押え盛土を主体とし、不足分を抑止工（鋼管杭工、アンカー工または深礎工）で補うこと、緩み域については、地下水排除工を計画した。さらに周辺対策として、下流端下部と最上流白屋谷地区に対策工が必要なことが提案され了承された。

6．今後の斜面監視

斜面変動を監視する目的で、引き続き計器等（伸縮計、傾斜計、水位計、GPS、孔内傾斜計等）による観測が必要であることが提案され了承された。